

第100回 ごみ収集パイプライン利用者の会 議事録

| | |
|-----|---|
| 日時 | 2025年11月27日 19:30～20:30 |
| 場所 | 芦屋浜 センタービル3F 会議室 |
| 参加者 | 友田・勝山(アステム C 棟)、村山(芦屋浜第1住宅)、飯田(浜風町第4住宅)、新宮(浜風町第5住宅)、小林(新浜町住宅)、三浦・池西・花園(ラ・ヴェール芦屋Ⅱ)、松木(ラ・ヴェール芦屋Ⅲ)、山口(アステム A・B 棟)、辛川(芦屋浜第2住宅)、河本・高木(緑第二住宅)、大田・野村(潮見南)、春木(南浜1街区)、川島(市議) 合計18名 |
| 議題 | <ol style="list-style-type: none"> 1. パイプライン障害発生 2. パイプライン協議会の報告 3. 廃棄物減量推進審議会の報告 4. ワーキング・グループからの報告 5. その他の話題 |

1. パイプライン障害発生(高浜 2 街区・4 街区の停止)

説明

- ・ 11月7日および 8 日に (高浜町 2街区:05059、05069、05079、高浜町 4街区:05099)で輸送管内でごみが堆積し、パイプラインが停止している。
- ・ 高浜 4 街区は高圧洗浄で異物を除去し復旧した一方、高浜 2 街区は高圧洗浄でも除去しきれず、再度の高圧洗浄(3 回目)により復旧を目指す状況である。
- ・ 詰まりの原因となる異物として、ドライヤー、丸型蛍光灯、タブレット、物干し部材、靴、紙、テープ台座等が回収された。
- ・ 停止期間中は臨時収集(週 3 回)を実施しており、臨時収集費は「1 日 4.5 万円」規模で発生している。加えて高圧洗浄費も必要で、住民全体の負担(公費)増につながっている。
- ・ 再発防止策として、賃貸居住者が多い県営住宅・UR 賃貸に対し、継続的かつ反復的な啓発を徹底するよう、市へ強く要請している。事故・迷惑行為の抑止(ペナルティや費用負担の議論を含む)も論点として提示された。
- ・ 障害報告の標準化として、発生状況を整理した表(写真添付必須)の形式で市から報告を受ける運用を求めた。

Q&A(主な質疑と応答)

- ・ Q:なぜこれほど異物が投入されるのか。
A:賃貸では入居者が入れ替わりやすく、啓発が継続されないと同様の事象が繰り返される。今回は「強制退去者ではないか」との市側情報も共有された。
- ・ Q:ペナルティ(費用負担等)を与えるべきではないか。
A:議論としては必要性が提起された。ただし、投入口では個人特定が難しい。現実策としては、写真掲示・現物提示などの啓発強化を継続する方針が確認された。
- ・ Q:住民への周知はどう行うべきか。
A:エレベーターホール等への写真掲示、注意喚起の貼り紙等を継続する。加えて県営・UR 側の組織的な啓発が不可欠。

2. パイプライン協議会の報告(運転状況・トラブル分析)

要約(説明)

- ・ 2025 年 11 月 15 日に、利用者側・市(環境部局)・運転事業者(T-MES)等で「パイプライン協議会」を開催。
- ・ 運転状況の報告は、従来の月次から「半年レビュー(4/1～9/30)」へ変更されていたが、利用者側は「月次に戻すべき」と問題提起した。
- ・ 4/1～9/30 のトラブルは全体で 147 件と増加。増加分の多くは、雨水混入等を背景とする軽微なシステム異常(設備側要因)が中心と説明。
- ・ 巡回点検は概ね横ばいで、利用者からの問い合わせは減少しており、住民影響の観点では改善傾向と評価された。
- ・ 住民に直結する特記事項として、投入口の「鍵穴位置ずれ」4 件、住民起因の投入口不具合 11 件(高浜・若葉など賃貸比率が高い地域が中心)が共有された。

Q&A(主な質疑と応答)

- ・ Q:半年に一度の報告では対策が遅れないか。
A:利用者側から「月次でデータを受け、必要な対策を即時に協議すべき」と提案した。
- ・ Q:鍵穴位置ずれへの対応は。
A:注意喚起(「最後まで回す」等)を貼り紙で実施。自治会が摩耗部品を持ち回りで補う例もあるが、再発は残っている。

3. 利用者側の提案(提供資料の 13 ページ「まとめ意見」:低コストで効く改善策)

説明

利用者側から、費用を大きくかけずに改善できる三点を提案した。

1. 運転管理の徹底: センター機械側の清掃・保守を強化し、小さな異常を増やさない。
2. 賃貸居住者への啓発徹底: 県営・UR への強い働きかけを市経由で継続する。
3. 情報提供の月次化: 半年では遅い。毎月データ共有し、必要な打ち手を随時協議する。

Q&A

- Q: 結局「お金がない」から難しいのでは。
A: 「ない」ではなく、使うべきところに使わないと障害が増え、結果として臨時費用が膨らむ、という整理である。まずは“ほぼ費用を要しない運用改善”を確実に行う。

4. パイプライン年次報告書(案)の共有と修正事項

説明

1. 芦屋市との協議(市長室での面談等)を経て、パイプラインの年次報告書を作成し、市議会承認につなげる枠組みが進んでいる。
2. 年次報告書案について、主要データとして以下が説明された。
 - 収集量は減少(前年対比 93.5%へ修正依頼あり)。
 - 人口・世帯数も減少傾向(例: 14,321 人→13,860 人)。
 - 処理経費は概ね目標(2.6 億円)以下で推移。計算誤りの修正(100.8%→105.2%)が市から連絡された。
 - 電力消費量も削減傾向(96.1%)。運転方法の工夫が背景。
 - 管更新より「内張り補修」を重視し、コスト抑制を図っている。
 - ただし掘削工事の担い手不足で、入札不調が発生している。
3. 運転停止回数など、一部数値の整合について、会議内で確認・再確認が行われた。(後日訂正があり 12 月の利用者の会で説明)
4. CO₂削減は進捗しているが、国の 2030 目標水準には距離がある。国民運動(デコ活)への問題提起も共有された。

Q&A(主な質疑と応答)

- A: 更新の巨額化を避ける現実策として位置付けられている。一方で掘削業者不足が大きな制約になっている。

5. ごみ減量推進審議会の報告(市全体のごみ施策・アンケート)

説明

- ごみ処理に関する「基本計画」は当年度内(来年 3 月まで)に策定予定。

- ・ 神戸市搬送を前提とした中継施設は令和 12 年 4 月までに整備、新しい資源化施設は令和 15 年 4 月までに整備予定との大枠スケジュールが示された。
- ・ 市民・企業向けアンケートを来年 2 月に実施予定。
- ・ ごみ排出量は目標達成傾向だが、リサイクル率が目標を下回っていることが課題として共有された。兵庫県内順位等の比較も提示され、芦屋は上位ではない。
- ・ アンケート案について、利用者側から設問設計への改善提案を行った。
 - 「関心→行動」ではなく、「知識(減量方法を知っているか)→行動」へと順序を整えるべき。
 - 「知っていても行動しない理由(原稿不一致の原因)」を問う設問を追加すべき。
- ・ 施策メニュー(古着交換、集団回収、見学会、出前講座等)は提示されたが、目標値が乏しい点を継続的に指摘していく方針が述べられた。

Q&A(主な質疑と応答)

- ・ Q:リサイクル率が高い自治体(例:宝塚)は何が違うのか。
A:現時点では詳細不明で、要因把握が今後の課題として共有された。
- ・ Q:アンケート設計の問題点は。
A:行動を問う前提として、減量方法の認知や、行動を阻む要因(制度・環境・心理)を問わないと、政策に資する結果になりにくい。

6. ワーキンググループ報告(代替案検討・実証実験の準備)

説明

- ・ 代替案検討のワーキンググループは毎月開催。12 月以降は月 2 回へ増やし、ファシリテーターを導入して議論を加速する方針。
- ・ 来年度から、住宅形態別(戸建・タウンハウス・中層・高層など)に各 1 地区程度を選び、実証実験を行う方向で準備中。
- ・ 基本理念(案)として、以下が共有された。
 1. 住民の納得最優先
 2. 利便性維持と景観向上の両立
 3. コスト透明化と住民負担への配慮
 4. 国内外先進事例から未来志向技術を探索
 5. 人口減少・物理制約など現実課題の直視
- ・ 投入口ごとの現地調査結果として、収集車の進入可否、候補設置場所、想定ごみ量等を整理した資料が提示された。必要に応じ、地区別コピー配布も検討。

- ・ 週あたり収集回数は、資料上は週 3 回想定(高層で週 2 回だと滞留量
が大きい)として検討しているが、確定ではない。
- ・ 代替案の概念として、地下ピット、カート方式、ボックス囲い、ゴミ庫方
式、金属ボックス、簡易ネット囲い等の選択肢が共有された。
- ・ カート方式は、いつでも排出でき、鳥獣被害も抑えやすく、収集側も作
業性が高い点が評価される一方、導入・更新費(カート約 10 万円/台の
目安)を誰が負担するかが大きな論点。収集車側にも対応装置が必要
で、市は対応車両の整備を検討している旨が述べられた。
- ・ 金属ボックスは、中身が見えにくく危険物混入(例:リチウムイオン電池)
や収集時のリスクがあり、収集側が懸念を示した。

Q&A(主な質疑と応答)

- ・ Q:候補設備の色や景観配慮はどうするのか。
A:現時点では詰めておらず、今後検討する。景観悪化を避けるため「囲
い」を検討する方向性が示された。
- ・ Q:カート方式が有力に見えるが、費用負担は。
A:初期は市側で一定対応しても、破損・更新を住民負担とする案が示
されており、ここが最大の争点。補助制度など交渉余地があるとの問題
提起があった。
- ・ Q:週 2 回収集では足りない地域があるのでは。
A:高層等は滞留が大きく、週 3 回想定で検討している(確定ではな
い)。
- ・ Q:危険物混入(リチウム電池等)のリスクは。
A:密閉・見えない方式ほどリスクが高まりやすい。実証実験で運用ルー
ルと監視・啓発の設計が不可欠、という方向性が共有された。
- ・ Q:ワーキングは誰でも参加できるか。
A:ホームページのスケジュールにより、関心がある住民は参加可能で
ある旨が案内された。

7. まとめ(会議全体の結論整理)

- ・ 高浜 2 街区の詰まりは未解決であり、高圧洗浄の追加実施と臨時収集
の継続が必要。再発防止として賃貸側への反復啓発を強化する。
- ・ 協議会報告は、住民影響の大きい指標(問い合わせ・住民起因不具合)
に焦点を当てつつ、月次データ共有へ戻す方向で改善提案を行う。
- ・ 年次報告書は枠組みとして前進。ただし数値誤りが複数あるため、根拠
明確化と修正管理の徹底を求める。
- ・ 市全体のごみ施策は長期スケジュールが提示された。アンケートは政策
に資する設計へ修正提案を継続する。

- 代替案は実証実験フェーズへ移行。ファシリテーター体制の下で月 2 回開催とし、現地データを基に住宅形態別に実装可能性を検証する。

以上